

令和4年4月1日

会 員 各 位

一般社団法人草津栗東医師会

会長 中嶋 康彦

外来感染対策向上加算について

2022年4月1日から算定できるようになった、外来感染対策向上加算、連携強化加算について3月31日の疑義解釈その1が公開されましたが、まだまだ具体的には不明な点も多く、これから草津栗東医師会と基幹病院とで相談しながら、皆さんにお伝えしていきます。

また届出書類について、書き方がよくわからない部分や、多くの添付書類が必要であったり、困っています。疑義解釈では、書類の書き方までは説明されず、近畿厚生局に問い合わせても、書類の書き方までは、よくわからないといったところです。こうでないとダメということもなさそうですので、例を作ってみましたので参考になさってください。

なお、本件は一斉ファックス送信しておりますので該当しない診療所にもお送りしています。

様式1の4 外来感染対策向上加算に係る届出書添付書類

1 院長名でいいでしょう

2 例) 「抗微生物薬適正使用の手引き」(このまま検索すると出てきます)、「中小病院における薬剤耐性菌アウトブレイク対応ガイドランス」(このまま検索すると出てきます)を参考にし、地域の基幹病院や草津栗東医師会などが行う研修会等で最新の知見を得て、抗菌薬適正使用に努める

てな感じでしょうか

3 先日の例会で言っていたように、淡海医療センター(HPでは開設者 社会医療法人誠光会 となっています)も済生会滋賀県病院(HPでは開設者 社会福祉法人 恩賜財団 済生会 となっています)も感染対策向上加算1を算定されるということで、連携医療機関として書いてもらってOKとのことでした。両病院を書いてもらっても良いと思います。また地域の医師会でもよいようなので、とりあえず草津栗東医師会(開設者は特になしで 所在地 滋賀県草津市大路二丁目1-35)と書いてもらっても良いように思います。いずれにしても、もう少し具体的にわかってきたら、当医師会と両病院と相談して、年2回必要なカンファレンス(研修会)や、アウトブレイク等に備えた訓練について実施していただくことになります。今後ご案内していきます。

4 チェックしていただき、自治体のホームページについては、滋賀県のHPに診療検査医療機関が公開されていますので、滋賀県のホームページ と書いていただいたら良いと思います。診療検査医療機関で、公開されていない医療機関におかれましては、これを機に公開をご検討ください。

〔記載上の注意〕について

- 1 診療所においては、院内の組織図など作成されていないことが多いのではないかと思います。作成されている場合は、感染防止対策部門を加えていただければ良いと思います。作成されていない場合は、とって付けた感満載ですが、例を作りましたので参考にしてください。
- 2 例を作りましたので参考にしてください。もとは日本医師会の「患者の安全確保対策室」の「院内感染対策指針のモデルについて」の一部です。
- 3 上述しました
- 4 すでにマニュアルを作成しておられる医療機関はそれで良いと思います。もし、作成がまだでしたら、例を作りましたので参考にしてください。もとは日本医師会の「患者の安全確保対策室」の「院内感染対策指針のモデルについて」の一部で平成19年の資料なので、COVID-19を書き加えています。
- 5 上述しました

なお、様式1の4と添付書類の見本については、草津栗東医師会ホームページ会員サイトの様式ダウンロード集「外来感染対策向上加算」にワードで登載しておりますので、各診療所で適宜修正のうえご活用ください。

様式1の5 連携強化加算・サーベイランス強化加算に係る届出書添付書類

- 1 サーベイランス強化加算については厚労省疑義解釈資料その1によると、対象となるサーベイランスは、JANIS 及び J-SIPHE または市区町村以上の規模で JANIS と同等のサーベイランスが実施されている場合、となっており、現実的には JANIS あるいは J-SIPHE を使用されている医療機関においては算定可能と思われます。
- 2 今のところ報告について、具体的にどのようなものか分かりませんし、現時点では実績もありませんので、空欄とし、欄外に「今後、感染対策向上加算1を算定される連携医療機関と相談して報告を行っていく」みたいなことを書いておけば良いのではないかと思います。当医師会と両病院と相談して、必要な調査（アンケートのような形式？）を医師会として皆さんに行って、病院への報告とできないか検討していきます。

なお、様式1の5の見本については、草津栗東医師会ホームページ会員サイトの様式ダウンロード集「連携強化加算・サーベイランス強化加算」にワードで登載しておりますのでご活用ください。

以上、突貫で作りましたので、不備や間違いがあるかもしれません。お気づきの点がありましたらご指摘ください。

この後も疑義解釈資料は随時公開され、分かってくることもあると思いますが、提出書類については上記参考にさせていただき、早めに期日前に送っていただければと思います。

以上